

〈幼稚園教育〉

幼児が主体的に活動できる環境の工夫 —表現活動を通して—

糸満市立西崎幼稚園教諭 新垣麻紀

I 研究の目的

幼児を取り巻く状況	<p>今日的課題</p> <p>近年、子供たちを取り巻く生活環境は、少子化、核家族化、共働きの増加に伴い様々な問題を抱え、子どもの生活スタイルも大人の都合に付き合わされることが多く、親子の会話やコミュニケーションの不足から、自分の思いをうまく表現することが苦手な子が増えてきたように思える。</p>
素朴な表現	<p>幼稚園における表現・主体性</p> <p>幼稚園における表現とは、言葉で表現したり、音楽を聴いて体を動かしたり、ものをつくったり、絵を描いたりなど様々な活動がある。表現活動においては、幼児が自分の気持ちや考えを素朴に表現する事を大切に、特定の表現活動のための技能を身につけさせるための偏った指導が行われないようにすることが大切であるといわれている。</p>
主体は幼児	<p>また、「幼稚園教育要領解説書」に、幼児の主体的な活動を促すとは、「教師主導の一方的な保育の展開ではなく、一人一人の幼児が教師の援助のもとで主体性を発揮して活動を展開していくことができるような幼児の立場に立った保育の展開である。」と述べられている。活動の主体は幼児であり、教師は活動が生まれやすいように意図を持って環境を構成することが大切であると捉える。</p>
意欲と充実感	<p>これまでの保育の反省</p> <p>これまでの保育を振り返ってみると、教師の計画した活動をさせることや集団をまとめようとし、「こうしなさい」「これはこうですよ」などの指示が多く、「幼児がしたいことや感じたことなどを表現しようとする気持ちや意欲を受け止めた援助をしていただくか」「幼児が主体的に表現する意欲を高めるための環境の工夫をしていただくか」と反省する。</p> <p>本研究において</p> <p>教師は日常生活の中で幼児が何に関心を抱いているのか、何に意欲的に取り組んでいるのか、何に行き詰まっているのか捉える必要がある。その捉えた姿から発達を見通し、特定の表現活動のための技能を身につけさせるのではなく、自分なりの表現を大切に、幼児の発想や意欲を大事に受け止め、幼児が主体的に「やってみよう」という意欲や、「楽しかった」という充実感を味わわせたいと思う。</p> <p>以上のことから、表現活動を通して「幼児が主体的に活動できる環境の工夫」について考えようと思い、本テーマを設定した。</p>

II 研究の目標

幼児が主体的に活動するために、表現活動を通して「やってみようとなるような環境づくり」と「教師の援助あり方」を探る。

Ⅲ 研究の方法

保育実践の表現活動において、次のような方法を行う。

- 1 幼児が「やってみたくなる」ような環境作りの工夫
- 2 幼児が主体的に活動するための、教師の援助のあり方の工夫

Ⅳ 研究内容

1 主体的に活動するとは

(1) 幼児の主体性について

「幼児の主体性と保育の展開」著・神長美津子氏によると「主体的にということは、単に自ら行動を起こす、あるいは自ら環境にかかわるといふ、表面に現れた行動だけを捉えているのではありません。幼児なりの興味・関心、あるいは願いや期待など、内的な動機をもって物事に取り組む姿勢」と述べている。

そこで幼児が主体的に活動することを、表1のように捉えてみた。

表1 幼児の主体性についての捉え

①興味や関心を持つ	・幼児が周囲の様々な出来事に出会い、「なんだろう」「おもしろそう」「不思議だな」など心を動かされる。心を動かされることにより、自分から出来事にかかわろうとする気持ちが持てる。
②願いや期待を持つ	・出来事に対して心を動かし自分からかかわる中で、「〇〇してみたい」「〇〇できるようになりたい」など、したいことやできるようになりたいことの願いを持つ。
③試行錯誤を繰り返す	・願いを実現するために「こうしたらどうかな」「やってみよう」などと考え、試したり工夫したりするなかで、様々なことに気づいたり発見したりする。

内的な心の動機

幼児が主体的に活動するには、教師に見守られているという安心感や安定感が基盤となる。自分の居場所があり心が安定することで行動範囲が広がる。

そこで、様々な物に出会い、心を動かして遊ぶことにより、興味・関心が広がっていく。そして興味や関心を満たそうと自分なりに試したり工夫したりしながら困難を乗り越え取り組んでいくようになる。困難を乗り越えることで、充実感・満足感を味わい、次への意欲へとつながっていく。このように幼児が主体的に活動する過程を図1にまとめた。

心の安定

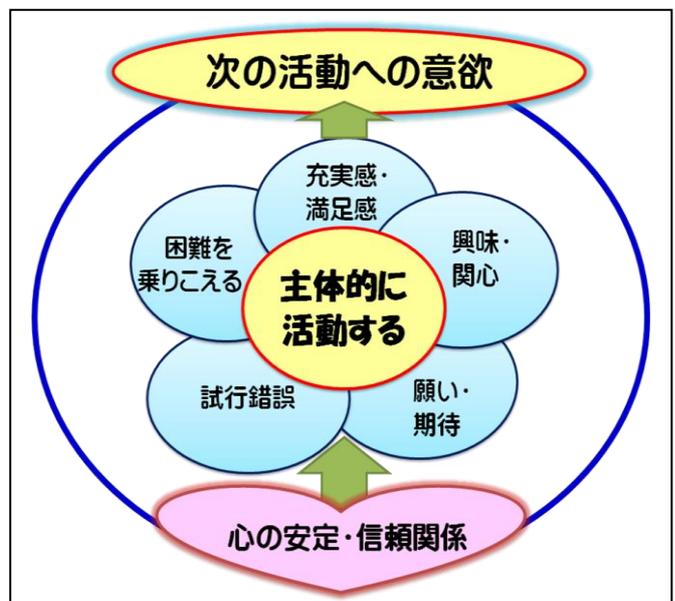


図1 幼児が主体的に活動するイメージ図

しかし、幼児が主体的に活動するだけでは、必ずしも発達に必要な体験が促されるとは限らない。主体的な活動の中に、発達に必要な体験ができるような教育的意義がなければならない。幼児が発達に必要な体験ができるように、教師は発達の見通しを持って意図的・計画的に環境を構成していかなければならないのである。

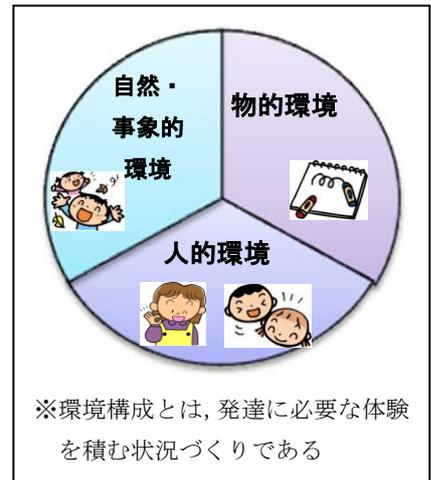


図2 環境構成の要素

2 環境構成について

(1) 環境構成とは

幼稚園教育は「環境を通して行う教育」が基本である。環境とは、物的環境、人的環境（教師や友達、身の回りの様々な人）、自然的環境（天候や自然物、時間や空間）など様々なものをいう（図2）。環境を構成するとは、物的、人的、自然的、社会的など、様々な環境条件を相互に関連させながら、幼児が主体的に活動を行い、発達に必要な経験を積んでいくことができるような状況を作り出すことである。

(2) 幼児が主体的に活動するための環境構成について

幼児が主体的に活動するためには、環境がどのように構成されているかによって大きく左右される。幼児が興味や関心を持ち、思わずかかわりたくなるような物や人、事柄があること、そこに幼児がかかわり興味や関心が深まり意欲が引き出される。また、やってみたいと思えるようにするとともに、試行錯誤を認め時間をかけて取り組めるようにすることも大切である。そのような主体的な活動をするためには、ありのままの自分を出せる教師との信頼関係のもとで安心感や安定感が基盤にあることが大切である。

そこで、幼児が主体的に活動するための環境構成の視点を教育要領や文献などをもとに表2のように促してみた。

表2 幼児が主体的に活動するための環境構成について

① 安心感・安定感が得られるような環境	<ul style="list-style-type: none"> ・ありのままの自分を出せる教師との信頼関係 ・温かい雰囲気、居場所をつくる ・自由に触れることのできる場づくり
② 興味や関心を持ち思わずかかわりたくなる環境	<ul style="list-style-type: none"> ・時期に応じた絵本や図鑑、壁面の構成 ・興味や欲求の刺激となる環境(材料・用具の準備)
③ 試行錯誤を繰り返すことのできる環境	<ul style="list-style-type: none"> ・じっくりと取り組める時間や場、材料、用具 ・一緒に試行錯誤を繰り返すことのできる友達の存在 ・見守ったり揺さぶったりする教師の存在

(3) 幼児の主体性と教師の意図

幼児の主体性と教師の意図がバランスよく絡むことで、幼児は発達に必要な体験をしていく。幼児の主体性に任せて「幼児をただ遊ばせている」だけでは発達に必要な体験が得られるとは限らないのである。教師は、一人一人の幼児の中に今何を育てたいのか、一人一人の幼児がどのような体験を必要としているのか明確にし、幼児が発達に必要な体験ができるよう意図を持って環境を構成する必要がある。

つまり、主体的に活動するとは、幼児の主体性と教師の意図がなければ発達に必要な体験は得られないのである。

状況を作り出す

思わずかかわりたくなる環境

3 表現活動について

(1) 幼児の表現について

幼稚園教育要領・表現「内容の取り扱い(2)」に「幼児の自己表現は素朴な形で行われることが多いので、教師はそのような表現を受容し、幼児自身の表現しようとする意欲を受け止めて、幼児が生活の中で幼児らしい様々な表現を楽しむようにすること。」とある。

幼児は生活の中で様々な物に出会うと、「これなんだろう」「おもしろそう」「不思議だな」と、その子なりの心の動きが見られる。その心の動きが、つぶやきであったり身体の動きであったり絵や製作であったりする。このように、自分の心の中にあるものを素直に自分らしく表に表すことが表現であると捉える。

幼児の自己表現は素朴な形で行われることが多く、日々の生活の中で感じたり考えたりしたことをそのまま素直に表現する。また、幼児は、自分の素朴な表現が教師やまわりの友達に受け止められる体験の中で、表現する喜びを感じ、表現への意欲を高めていく。

そこで、教師はほんのささいなことと思えるものでも、幼児らしい表現と受け止め共感していくことが大切であると考えます。

(2) 主体的に表現活動を楽しむための環境構成の工夫

幼児が主体的に表現活動を楽しむための環境構成や教師の援助の工夫を図3のように示した。

素朴な表現

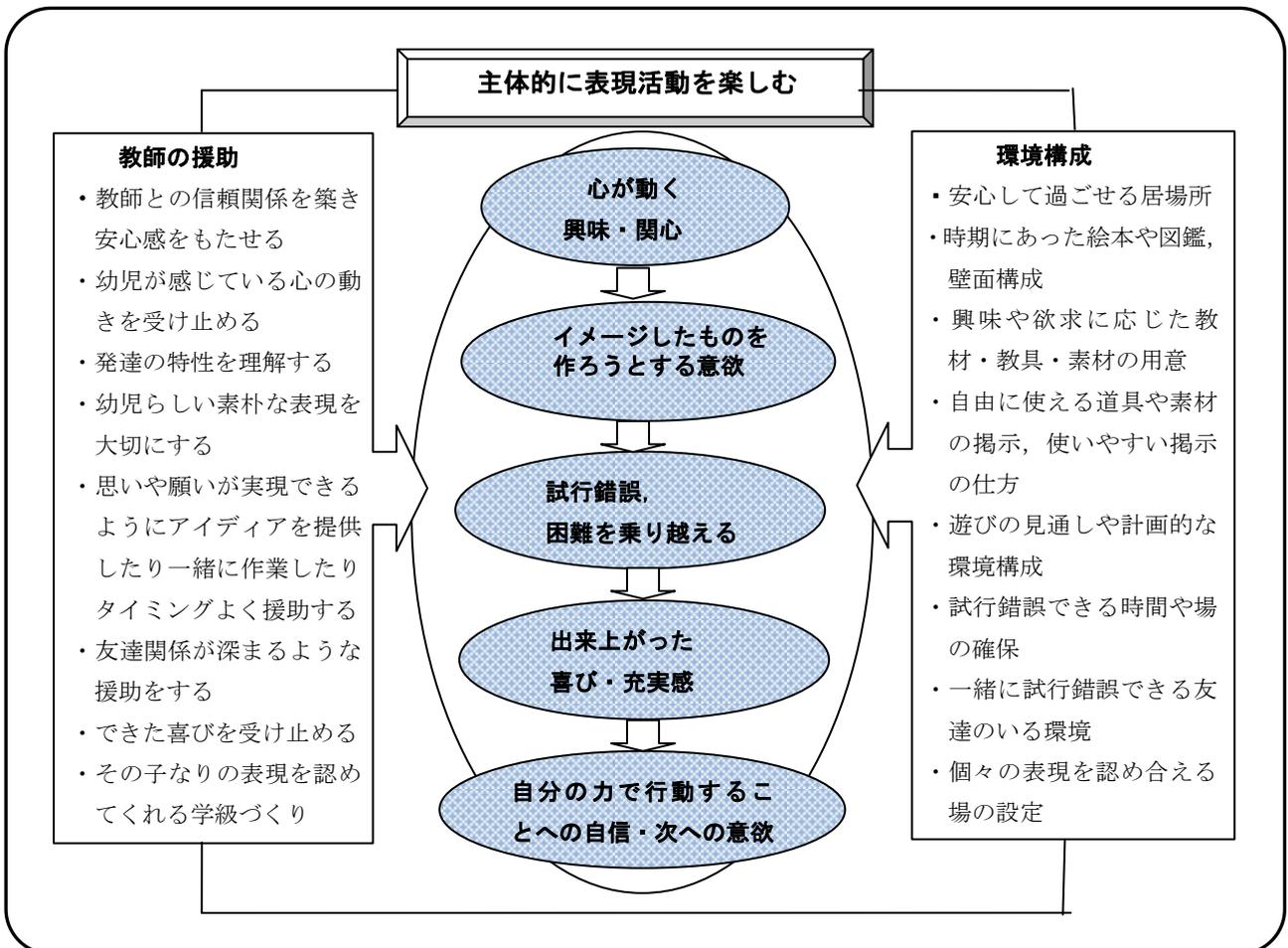


図3 幼児が主体的に表現活動を楽しむ環境構成と教師の援助

V 研究の実際

幼児が主体的に活動するために、「やってみたくなるような環境づくり」と「教師の援助」を工夫し、3回の保育実践を行い工夫・改善をする。

1 保育実践①「動物大好き！」(11月)

(1) 活動名 「カバの口、大きかったよ！」

- ① 保育のねらい
 - ・自分の好きな動物の絵を描くことを楽しむ。
- ② 検証のねらい

ねらい	<ul style="list-style-type: none"> ・遠足の前後に、動物の特徴に気づかせるような環境の工夫をし、好きな動物の絵を描くことを楽しむことができるような援助の工夫をする。
具体的な環境の工夫・ 教師の援助	【環境の工夫】 <ul style="list-style-type: none"> ・動物の絵本「しっぽしっぽ」、図鑑、曲「動物園へ行こう」「ぞうさん」などの用意 ・動物クイズを絵に描いて提示する ・遠足の思い出の写真を掲示する（壁面構成） ・園庭のカメを保育室に移動する ・大きさを工夫した画用紙や色画用紙を用意（長方形・丸・三角など） ・牛乳パックを利用して動物園の入り口を子どもと共に作る
	【教師の援助】 <ul style="list-style-type: none"> ・動物の絵を描いている途中で、友達のおもしろい表現やアイデアを知らせる ・戸惑っている子にはタイミングを見計らいヒントになる絵本を提示したり、イメージしやすいような言葉をかけたりする ・絵本や歌・クイズを通して動物の特徴がイメージできるようにする

(2) 実践計画

月日	検証のねらい	予想される幼児の活動	○環境構成・ ★援助の工夫	実際の幼児の姿	検証結果
10月21日(水)	・動物園に遠足に行くことに期待を持たせたか。	・動物の絵本に興味を持つ。 ・動物の絵本を見る。	○幼児と一緒に動物に関する絵本、図鑑、動物の曲を用意する。 ★動物に関する絵本「かくれんぼ」を読む。	・いろいろな動物の絵本を見つける喜びを味わう子、友達と一緒に絵本を広げ動物に関心を示す子の姿が見られた。 ・絵本をみて、カンガルーの真似をするなど自分なりの表現を楽しんでいた。	・絵本などを幼児と一緒に準備する中で、動物に対する興味、関心が高まった。
10月28日(水)	・動物園に遠足に行くことに期待を持たせたか。	・動物の歌を歌う。 ・動物の絵本「しっぽしっぽ」を見る。 ・動物クイズをする	○動物の特徴がイメージできるように動物クイズをする。クイズを紙芝居のようにして示す。	・身乗り出し、喜んでクイズに答えていた。	・動物の歌やクイズをして、動物に対する興味、関心が高まった。
10月30日(金)	・普段見ることのできない動物を間近に見ることで興味・関心を持てたか。	・動物園へ行く。(遠足当日)	★幼児のつぶやきや感動を逃さず、一緒に感動を共有する。	・本物の動物を間近で見ると「カバの口、大きい!」「象さん、初めて見た」など驚きや喜びの声を上げていた。	・実際に動物を間近で見ることによって、驚きや喜びの声や表情が見られ、感動を十分に味わえた。
11月2日(月)	・動物園で見たり触れたりした動物の感動を共有できたか。	・教師や友達に自分の思いを伝えたり、友達の話の話を聞いたりする。	★遠足の話を聞き、幼児の思いやその子らしい感動、つぶやきを受け止める。	・動物園での様子、バスでの様子を思い思いに口にしていた。	・友達や教師と楽しかった遠足のことを思い思いに口にし、感動体験を共有することができた。

11月4日(水) 検証当日	・自分の好きな動物の絵を描くことを楽しんでいたか。	・遠足当日の写真を見る	○遠足当日の写真を提示し、楽しかったことを思い出し友達と共有できるようにする。	・友達と一緒に笑い合ったり会話をしながら、喜んで写真を覗き込んでいる。	・友達と、楽しかったことやイメージの共有化ができた。
		・動物クイズをする	★絵を描く前にもう一度、動物の特徴がイメージできるようにクイズをする。	・「あ〜そうだった」と動物のことを思い出す姿が見られた。	・幼児と受け答えをしながら進めていたつもりだが、幼児は「先生が求めていることは何か」と教師に合わせてクイズをしていた。
		・イメージに合った画用紙を選ぶ	○自分のイメージに合った素材を選ぶように、いろいろな形や色の画用紙を提示する。	・ほとんどの子が白の大きな画用紙を選ぶ。友達と画用紙をテープでつなげる子もいた。	・画用紙の種類が多すぎて、返って選びにくかった。いろいろな大きさの紙を普段から使い慣れていなかった。
		・絵を描く場面	★戸惑っている子にはイメージしやすいように言葉をかけたり、ヒントになる絵本を提示する。 ★出来上がった子の作品を黒板に貼っていく。	・描き始める前は戸惑う子が多かったが、教師の言葉かけや友達の描いている様子を見ているうちに、ほとんどの子が自分なりのイメージで描き始め表現を楽しんでいた。	・動物を黒板の動物園に貼り、幼児は楽しんでいったようだが、教師自身にゆとりがなくひとりひとりの幼児に合わせた援助がたりなかった。

【考察】・幼児と一緒に絵本や図鑑、音楽などを用意したことで動物に対しての興味・関心が高まり、又、実際に遠足で動物を間近に見たことで、驚きや喜びなどの感動体験をすることができ、自分なりに表現しようとする気持ちにつながったのではないかと考える。(成果)

・ほとんどの子が絵を描くことは楽しんでいた。これまでの保育の中で絵を描くことの体験不足から、のびのびと表現する面においては弱さが見られ、今後、幼児が普段から絵を描いたり作ったりできるような環境を整えておく必要性を感じた。(課題)

・描かそうとする気持ちが強く、幼児の気持ちに添うような十分な言葉かけができなかった。(課題)

【改善】・幼児が普段から絵を描いたり物を作ったりするなどやってみたくなるような環境を、目につきやすい場所に必要に応じて用意しておく。

・幼児らしい素朴な表現を大事に受け止め、その子なりの表現を認め自信をもたせるような言葉かけや援助の工夫をしていく。



写真1 幼児と動物の絵本を用意している様子



写真2 動物クイズをしている様子

2 保育実践②「ペープサート遊び」(12月)

(1) 活動名 「ペープサート遊び」

- ① 保育のねらい
 - ・友達と一緒にペープサート作ったり演じたりすることを楽しむ。
- ② 検証のねらい

ねらい	<ul style="list-style-type: none"> ・友達と一緒にペープサートを楽しめるような環境づくりをし、意欲がわくような言葉かけをしていく。
工夫・教師の援助	【環境の工夫】 <ul style="list-style-type: none"> ・幼児の描いた動物の絵でペープサートを作る ・お話の場面に応じてめくれるような壁面を用意する ・ペープサート作りに必要な素材・用具を準備する。必要に応じて幼児がとれるようにする。
	【教師の援助】 <ul style="list-style-type: none"> ・友達のおもしろい表現やアイデアを普段の保育の中で知らせていく。 ・幼児の考えや工夫したこと、アイデアを引き出すようにさりげなく言葉かけや援助をする。

(2) 実践計画

秋の遠足で動物園に行った経験から動物に関心が見られる。幼児の描いた動物の絵でペープサートを作り、遠足のお話や「うさぎとかめ」などのお話をして興味を持たせた。

月日	検証のねらい	予想される幼児の活動	○環境構成・ ★援助の工夫	実際の幼児の姿	検証結果
12月21日(月)	<ul style="list-style-type: none"> ・ペープサートに興味・関心を持つかどうかを調べる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・教師の演じるペープサートを見る。 ・ペープサートに触れたり、作ったりする。 	<ul style="list-style-type: none"> ○子どもの描いた絵でペープサートをつくる。 ★幼児の反応を見ながら教師が楽しくお話しをする。 ○いつでも使えるように、場の設定を残しておく。 ★幼児がどのような願いを持って遊ぼうとするのか様子を見る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・自分の描いた絵を使ったペープサートを、嬉しそうに見ていた。 ・教師の「ウサギとカメ」の話では、笑いがおこり楽しそうに見ていた。 ・数人の子は、すぐにペープサートに興味を示し触れたり、作ったりする子もいたが、3分の2の子は、ペープサート以外の、好きな遊びを楽しんでいた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・学級の3分の2の幼児が、興味・関心を示し楽しそうな表情で最後まで見ていた。(他教師による観察より) ・ペープサートには興味を示していたが、自分で描いたり作ったりする子は、少なかった。

〈その日の反省〉

- ・学級の幼児の様子を見てみると、友達や先生に手紙を書いたり、友達と一緒に字を書くことに興味を示している。そこで、学級の実態から「絵本づくり」に主体的に取り組めるような材料(画用紙や鉛筆、クレヨン、ホッチキスなど)を用意した。

月日	検証のねらい	予想される幼児の活動	○環境構成・ ★援助の工夫	実際の幼児の姿	検証結果
12月22日(火)	<ul style="list-style-type: none"> ・友達と一緒に絵本を作ったりすることを楽しんでいたか。 	<ul style="list-style-type: none"> ・友達と一緒に絵本づくりをする。 	<ul style="list-style-type: none"> ○幼児の反応を見ながら絵本づくりにもっていけるようにする。 ○絵本づくりもできるように、5, 6枚くらいの画用紙をつづつて用意しておく。 ★いろいろな幼児の考えやアイデアを十分に受け止め、幼児の思いを実現できるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・絵本づくりには、学級のほとんどの子が関心を示し、画用紙を要求し、発表会で演じたオペレッタを描いたり、好きな絵本を見ながら描き始めていた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・幼児の実態を受け環境の再構成したら、学級のほとんどの幼児が意欲的に絵本づくりに取り組む姿が見られた。 ・試したり工夫したりする時間のゆとりがなかった。 ・3学期になっても絵本作りを楽しむ子も見られた。

【考察】・幼児の描いた動物の絵でペープサート遊びができないかと予想し、必要な材料や用具を環境として設定したが、この時期の学級の幼児は好きな絵や字を書くことに興味を示していた。そこで、そのような幼児の実態を受け絵本作りができるような素材、教具等を用意した。すると、予想通りほとんどの幼児が絵本作りに意欲的に取り組む姿が見られた。幼児の主体性を育むために教師は、幼児の興味・関心に添い、その時期の発達に応じた活動が展開できるような援助が必要であると痛感した。(成果)

・絵本作りにじっくり取り組める時間の確保ができなかった。今後、友達と一緒に試行錯誤しながら遊び込める時間や場を設定し継続していく必要がある。(課題)

【改善】・見通しを持った計画とじっくり取り組める時間や場を確保し、主体的に取り組むことのできる環境を考えていく。

3 保育実践③「こまで遊ぼう」(1月)

(1) 活動名 「こまで遊ぼう」

(2) 設定の理由

- ① 教材観 (省略) ② 幼児観 (省略)
- ③ 指導観

主体的に活動できる幼児を育てるため、これまで実践保育①②を通して、幼児が興味・関心を持てるような環境づくりの工夫を行ってきた。結果として、ただ単に環境を作るだけでは、主体的に活動するとは限らず、幼児の興味・関心に添い、その時期の発達に応じた教師の援助が大切であることが分かった。また、幼児の思いを先取りせず、気持ちに添いながら幼児理解し援助することも大切であることが分かった。

そこで、今回のこま遊びにおいては、まず、環境の工夫として友達同士でこま回しにじっくりと取り組める場の工夫や、試したり工夫したりできるような教材・材料を用意する。そして、教師の援助として、幼児の実態を把握し、見守った方がいいのか、直接援助するのを見極めながら主体的に活動できるような援助をしていく。

また、本時においては学級全体と3タイプの抽出児をあげ、教師が保育改善することで主体的に活動していくようになったか変容をみる。

Aタイプ (意欲があり、積極的に活動に取り組める幼児)

Bタイプ (促したらやろうとする意欲が見られる幼児)

Cタイプ (意欲が見られず、なかなか活動に取り組めない幼児)

(3) 保育目標と検証のねらい

- ① 保育目標
 - ・自分なりのめあてを持って繰り返し挑戦する。
 - ・試したり工夫したりすることを楽しみながら、いろいろな色の変化や美しさ不思議さに気付く。
- ② 検証のねらい

幼児理解

ねらい	<ul style="list-style-type: none"> ・やってみたくなるような環境を設定し、意欲的にこま回しを楽しむことができるように幼児の気持ちに添いながら言葉かけや援助をする。
具体的な環境の工夫・教師の援助	<p>【環境の工夫】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・じっくり取り組めるような時間や場の確保をする。 ・いろいろな種類のこまを用意する (手回しごま、逆さごま、木ごま、紐ごまなど) ・友達同士でこま回しにじっくりと取り組める場の工夫をする。こま回しのコーナーを作り、幼児が取り出しやすい場所にこまを置く (動線) ・いろいろな回し方が工夫できるように、クッキーの缶の蓋やお盆、茶托などを用意する。 ・試したり工夫したりできるような教材 (画用紙、折り紙、マジック、ビニールテープなど) を用意する。 ・片付けしやすい環境の工夫をし、こまを大事にする気持ちを育てる。 ・コマに関する絵本や図鑑を目につきやすい場所に置く。 <p>【教師の援助】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・幼児が何を表現しようとしているのか、どのように挑戦しているのか、どこに困難を感じているのか実態を把握し、見守った方がいいのか、直接援助するのを見極めながら援助する。 ・繰り返し取り組んでいる子には、少しでも出来た時、認め励まし、自信や意欲へとつなげていくような援助をする。 ・色をつけたりテープを貼って回したときの美しさや、色の不思議さを感じられるような言葉かけをしながら、さらに興味を持って取り組めるようにする。 ・こま遊びをする上での安全面、人に向かって投げたりガラスや鏡に投げたりしないように安全なこまの回し方について話し合いを持つ。

(4) 保育計画

月日	検証のねらい	予想される幼児の活動	○環境構成, ★教師の援助	検証結果
1/8 (金)	・コマに親しみや興味・関心を持たせることができたか。	・こま・カルタ・すごろく・けん玉などをして遊ぶ。	○いろいろな正月遊びに関心を持ち、ゆったりと楽しめるようにコーナーを作ったり、子供たちが取り出しやすい場所に道具を置いたりしておく。 ○遊んだ後の片付けの仕方を考え、自分たちで片付けまでしっかりできるようにする。	・学級の4分の1ほどの幼児がコマに興味・関心を示したが、繰り返し取り組む子は、初めはわずかであった。 ・コマを回せる幼児(4人) ・挑戦する幼児(10人)
1/12 (火) 1/15 (金)	・友達とこま回しを楽しもうとしていたか。	・友達とこまを回して遊ぶ。 ・正月やこまの絵本をみる。	○こま回しを教師がやって見せたり、一緒に遊んだりしながら遊び方や楽しさを知らせていく。 ○こまに関する絵本や図鑑を目につきやすいところに置いておく。	・コマへの興味・関心が高まり、学級の2分の1ほどの幼児が興味・関心を示した。友達の刺激を受け、取り組む子が多い。 ・コマを回せる幼児(15人) ・挑戦する幼児(9人)
1/19 (火) ～ 1/28 (木)	・自分なりの目当てを持ち、友達とこま回しを楽しんでいたか。	・教師や友達とこまを回して遊ぶ。 ・いろいろな形の画用紙に模様や色をつけ遊ぶ	★教師も一緒に遊びながら、こま回しのコツをさりげなく伝え、あきらめずに挑戦する気持ちを大切にする。 ○こまが回せるようになると、友達と競ったりいろいろな回し方を工夫したりするので、十分に組みめるように時間や場所を保障する。 ○いろいろな回し方を工夫できるように、おぼんや茶卓などを用意する。	・ほとんどの子がコマに興味を持ち取り組んでいる。友達の影響が強く、一緒に挑戦する友達がいることで繰り返し楽しんでいる。 ・友達と競争したり、箱の中で回すことを目当てにし、意欲的に取り組んでいる。 ・コマを回せる幼児(19人) ・挑戦する幼児(9人)
1/29 (金) 本時	・コマにのせる素材に色を付けることに主体的に取り組ませることが出来たか。 ・自分なりの目当てを持ち、友達とこま回しを楽しんでいたか。	・いろいろな用具、素材を使いこまに色を付ける。 ・色を付けたこまを回し、色の変化に気づき、さらに自分なりの発想で色の付け方を工夫し試していく。	○こま作り(色つけ)が楽しめるように、イメージの沸きやすく、工夫や試しができるような材料を用意する。 ★色をつけたりテープを貼って回したときの美しさや、色の不思議さを感じられるような言葉かけをしながら、さらに興味を持って関わられるようにする。	※P11,12 参照

(5) 本時の保育展開

- ① 活動名 「こまで遊ぼう」
- ② 検証項目と観点

	検証項目	検証観点	検証方法
主体的に活動できる環境づくり	【環境づくり】 ・「やってみたくなるような」興味・関心がある環境づくり	・コマを取り出したり片付けがしやすいような環境の工夫がされていたか。 ・こまの色つけ(色の変化や形の組み合わせ)が楽しめるように、試したり工夫ができるような素材・教具などが用意されていたか。 ・こまに色をつけたり回すことを繰り返し試せるような場づくりができていたか。	観察法 (観察評価表を活用)
	【教師の援助】 ・意欲的にこまの色付けをしたりこま回しに取り組むための援助	・教師も一緒に遊んだりしながら遊び方や楽しさ、こまの色の変化、不思議さなどに気付かせていたか。 ・戸惑っている子への援助や言葉かけがされていたか。(励ます、アドバイス、褒めるなど) ・色をつけたりテープを貼って回したときの美しさや、色の不思議さを感じられるような言葉かけがされていたか。	観察法 (観察評価表を活用)

③ 教材準備

手回しごま, ひもごま, 逆さごま, アルミ製ひもごま, 水性マジック, 画用紙, 折り紙, ビニールテープ, はさみ, セロテープなど

④ 保育の展開

<p>幼児の姿ねらい</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・数人の友達と一緒に、こま回しやカルタ取り、すごろくなどの正月遊びを楽しんでいる。 ・こま回しに興味を持ち、友達の動きを見たり教え合ったりしながら繰り返し挑戦する姿が見られる。 ・仲間意識を持って友達と一緒に過ごしているが、思いや考えの違いからトラブルになることがある。 	<p>内容</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自分なりに工夫したり試したりして、色の変化、美しさ不思議さなどに気付く。
	<p>予想される幼児の活動</p>	<p>○環境構成、★教師の援助 抽出児の援助—A★・B★・C★ ※検証方法は観察法で行う。</p>
<p>9:30</p>	<p>◇教師の周りに集まる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・指遊びをする。 ・今日の活動について話し合う。 ・コマを回すときに気を付けることを確認する。(人に向けない・鏡やガラスに向けない) <p>◇好きなテーブルで、いろいろな素材に色を付ける。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自分のイメージに合った、素材、用具を選びこまへの色づけを始める。  <p>・友達と一緒に、試したり工夫したりしながらこまの色つけやこま回しを繰り返し行う</p> 	<p>○指遊びや歌を歌いながら楽しい雰囲気をつくる。</p> <p>★「今日は、コマで楽しく遊びたいと思います。ここにいろいろな材料があります。好きな色を付けてみてね。そしてコマの上ののせて回すとどうなるかな。気付いたことがあったら、先生に教えてね」と材料や教具を見せながら、興味を持てるように話していく。</p> <p>○コマを回すときの約束を、絵で示しながら確認する。</p> <p>○今日の流れや片付けの時間などを確認し見通しが持てるようにする。</p> <p>○試したり工夫したりできる素材をテーブルの上に用意し、自分で素材を選びコマの色付けに取り組めるようにする。</p> <p>B C★とまどっている場合は、様子を見守りながら声をかけたり友達のやり方を見せたりしてきっかけをつくっていく。</p> <p>A B C★色をつけたりテープを貼って回したときの色の変化や不思議さなど、幼児が気づいたことや発見したことに共感し、さらに興味を持って関わられるようにする。</p> <p>A★一人一人の幼児がしようとしていることや工夫したことを認め、自信を持って取り組めるようにする。</p> <p>B C★その子なりの発想や表現を認め言葉をかけたり、「○○さんのおもしろいよ」など他の子の表現にも気づかせたりしながら、のびのびと楽しめるようにする。</p> <p>B★教師も一緒に遊びながら、こま回しのコツをさりげなく伝え、あきらめずに挑戦する気持ちを大切にする。</p> <p>C★上手くひもごまを回せない子には「手回しゴマも、おもしろいよ」言葉かけをし、いろいろなやり方を知らせる。</p> <p>A B C★色を付けたり回したりする活動を何度もくり返し試して遊べるように「こうしたらどうなるかな」「それ、おもしろいね」など意欲が持てるような言葉をかけていく。</p>
<p>10:15</p> <p>反省 評価</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・「やってみよう」という気持ちを持ち、自分から活動に取り組んでいたか。 ・幼児が繰り返し楽しんだり工夫したりして遊べるよう必要な素材を十分に用意していたか。 ・一人一人が表現している姿を受け止めたり認めたりすることができたか。 	

(6) 本時の評価

表3・4は、観察者(4人)から見た学級全体と抽出児の評価である。その結果を考察する。

【学級全体】

表3 観察者が見た評価

評価項目	十分満足	概ね満足	やや努力を要する	努力を要する
【こま製作の場面】 こまの色塗りに興味・関心を示していたか。	ほぼ全員が興味・関心を示し、意欲的に取り組んでいた。	3分の2くらいの幼児が興味・関心を示し、意欲的に取り組んでいた。	半分くらいの幼児が興味・関心を示し、意欲的に取り組んでいた。	3分の1くらいの幼児が興味・関心を示していた。
評価	4人			
【こまで遊ぶ場面】 自分なりに試しながら、こま回しやこまの色つけに取り組んでいたか。	ほぼ全員に意欲があり、自分なりに試しながらこま回しやこまの色つけに取り組んでいた。	3分の2くらいの幼児が自分なりに試しながらこま回しやこまの色つけに取り組んでいた。	半分くらいの幼児が自分なりに試しながらこま回しやこまの色つけに取り組んでいた。	3分の1くらいの幼児が自分なりに試しながらこま回しやこまの色つけに取り組んでいた。
評価	2人	2人		

【抽出児】

表4 観察者が見た評価

評価項目	十分満足	概ね満足	やや努力を要する	努力を要する
【こま製作の場面】 こまの色塗りに興味・関心を示していたか。	自分から興味関心を示し、こまの色塗りに進んで取り組んでいる。	教師や友達が声をかけると、「やってみようかな」と興味関心を示し取り組んでいる。	教師が声をかけると時々やろうとするが、最後まで取り組まずあきらめてしまう。	意欲がみられず、教師や友達が声をかけても、取り組もうとしない。
評価	A1児・A2児・B1児 B2児・C1児・C2児			
【こまで遊ぶ場面】 自分なりに試しながら、こま回しやコマの色つけに取り組んでいたか。	意欲があり、自分なりにいろいろと試しながらこま回しやコマの色つけに取り組んでいた。	友達の発想やアイデアを見ながらコマの色つけに取り組んでいる。	教師が声をかけるとやってみようとするが、なかなか続かない。	友達の様子を傍観し一人で何もせずに過ごしていた。
評価	A1児・A2児・C1児 B1児	B2児・C2児		

① 学級全体から

観察者からみた学級全体の評価は、表3で示されているように、ほぼ全員がこま遊びに興味・関心を示し意欲的に取り組んでいたことがわかる。

観察者からみた幼児の姿では「こまを上手く回せない子も友達の様子を見ながら意欲的に挑戦している姿が多く見られた」また、「いろいろな色のテープを工夫しながら回している姿がみられた」とある。

それは、試してみたいくなる環境や一緒にこま回しを楽しむ友達の存在が、遊びへの意欲につながっていったと考える。途中で飽きてしまう子も数人見られたが、その子のこれまでのこまに取り組む姿から挑戦しようという意欲が見られてきているので、それを十分に認めながらその子に合わせた言葉かけや援助を続けていく必要がある。

② 抽出児から

観察者からみた抽出児の評価は、表4で示されているように、A・B・Cタイプ全員がこま製作の場面では、自分から興味・関心を示し進んで取り組んでいた。また、こまで遊ぶ場面では4人の抽出児が自分なりにいろいろ試しながら取り組み、B2児、C2児が友達の発想やアイデアを見ながら取り組んでいた。そのことから、抽出児全員が、主体的にこま回しに取り組んでいたと判断できる。

表5は、観察者から見た抽出児のこま回しに取り組んでいた姿である。抽出児は3タイプの幼児を2人ずつ抽出した。観察者から見た抽出児の姿から考察する。

- Aタイプ（意欲があり、積極的に活動に取り組める幼児）
- Bタイプ（促したらやろうとする意欲が見られる幼児）
- Cタイプ（意欲が見られず、なかなか活動に取り組めない幼児）

表5 観察者から見た抽出児の姿

A1児	B1児	C1児
・長方形と正方形の紙に様々な色を塗り重ね、組み合わせを楽しみながら回していた。	・「あっ赤が見えてきた。青もみえてきた」とこまがゆっくり回転したときの色の变化、不思議さに気付き何度も試していた。床に頭をつけるようにしてこまの回る様子を見ている	・友人をしきりに誘う姿が見られたが、一人でもしっかりと色付けをしたり積極的に取り組んでいた。 ・何度も挑戦して改善を重ねていた。
A2児	B2児	C2児
・こまを回せないが、自分の回し方にこだわり何度も挑戦していた。 ・テープや丸シールを貼って、デザインの工夫をしていた。	・友達と一緒に同じ色を塗ったり、テープの色を組み合わせながら繰り返しこまを回していた。	・6回ほど挑戦して1回まわった。途中で、手を洗いに行く。その後、あやとりを始めていた。

Aタイプ、Bタイプは、どちらもこまの色塗りやこま回しに、興味・関心を示し主体的に挑戦する姿がみられた。C1児、C2児も友達から刺激を受けながら意欲的に取り組む姿が見られた。特にC2児は、最近、こま遊びに興味を持ち始めたばかりで、いつもよりこま回しに取り組んでいる姿が見られた。途中であやとりに興味が移行したが、その子の行動を認めながら機会を見つけ、こまを回したときの楽しさや面白さを知らせていきたい。

③ 環境づくりや教師の援助について

表6は、観察者から見た環境づくりと教師の援助の評価である。その結果を環境づくりと教師の援助の2つの観点から考察する。

表6 観察者から見た環境づくりと教師の援助の評価

(A良い, B概ね良い, Cあまり良くない, D良くない)

検証項目	検証の観点	評価
【環境づくり】 ・「やってみたくなるような」興味・関心が持てる環境づくり	・コマを取り出したり片付けがしやすいような環境の工夫がされていたか。	A
	・こまの色つけ（色の变化や形の組み合わせ）が楽しめるように、試したり工夫ができるような素材・教具などが用意されていたか。	A
	・こまに色をつけたり回すことを繰り返し試せるような場づくりができていたか	B
【教師の援助】 ・意欲的にこまの色付けをしたりこま回しに取り組むための援助	・教師も一緒に遊んだりしながら遊び方や楽しさ、こまの色の变化、不思議さなどに気付かせていたか。	A
	・戸惑っている子への援助や言葉かけがされていたか。（励ます、アドバイスをする、褒めるなど）	B

「やってみたくなるような」興味・関心が持てる環境づくりについて

・幼児が自分から興味を持って、かかわることができるように、用具や素材の種類、数量及び配置などの環境を幼児と共につくっていくことが幼児が主体的に活動に取り組むことにつながると気づいた。（教師が前もって環境を整えすぎた。）

主体的に取り組むための教師の援助のあり方について

・一緒に活動している友達がいることや教師に認められたりすることで、やってみようという意欲を持ち活動していたと考えられる。しかし、ひとりひとりの幼児に対して、満足のいく言葉かけやその子に応じた援助は適切であったか反省する。
・教師が「こうすれば回るよ」とすぐに先取りするのではなく、幼児が試行錯誤し目的に向かっていく過程を大事にすることが大切であると再認識した。

VI 研究のまとめ

本研究においては、幼児が主体的に活動するようになるために、やってみたくなるような環境づくりの工夫と教師の援助のあり方を探りながら、保育実践を繰り返し行った。実践の結果（保育実践①②③）で分かったことをまとめる。また、幼児の変容においては、保育実践の事前(10月)と事後(2月)の様子を教師の観察によりまとめる。

1 やってみたくなる環境づくりと援助のあり方から

や っ て み た く な る 環 境 づ く り	保育実践①より	<ul style="list-style-type: none"> ・絵本や図鑑など幼児と共に環境を用意していくことで幼児の興味・関心が高まり、活動への意欲につながる事が分かった。 ・幼児が普段から絵を描いたり作ったりできるように画用紙や用具など、出し入れしやすい環境を整えておくことが大切である。
	保育実践②より	<ul style="list-style-type: none"> ・教師が計画した活動をさせるのではなく、幼児の実態（興味・関心）を捉え、幼児の思いや願いに添いながら環境を再構成していくことの大切さを再確認した。 ・見通しを持った計画と、試行錯誤しながら遊び込める時間や場を確保していくことが大切であると痛感した。
	保育実践③より	<ul style="list-style-type: none"> ・主体的な活動を展開するためには、素材や教具など教師がすべて用意するのではなく、幼児が自分で考えたり試したり工夫したりできるような環境を、幼児と共に創っていくことが大切であることが分かった。 ・一緒に試行錯誤しながら、かかわれる友達や教師のいる人的環境も大切であると再認識した。
教 師 の 援 助	保育実践①より	<ul style="list-style-type: none"> ・幼児の考え・思い・つぶやきを、丁寧に受け止め、幼児が何を実現したいのか幼児理解をし、「待つ」保育のゆとりを持ちたい。 ・幼児らしい素朴な表現を大事に受け止め、その子なりの表現を認めていくことが表現する喜び、自信や意欲へつながっていくことの再確認をした。
	保育実践②より	<ul style="list-style-type: none"> ・幼児の主体性を育むためには、教師は、幼児の興味・関心に添い、その時期の発達に応じた活動が展開できるような援助が必要であると痛感した。
	保育実践③より	<ul style="list-style-type: none"> ・教師が「こうすれば回るよ」とすぐ先取りして技術を教え込むのではなく、幼児が試行錯誤し目的に向かって困難を乗り越えていく過程を、見守ったり揺さぶったりしながら支えていくことが大切である。

2 幼児の変容から

表7は、教師の観察による学級全体の保育実践事前と事後の遊びの変容である。

表7 教師の観察による学級全体の遊びの変容

事前(10月)の姿	事後(2月)の姿
<ul style="list-style-type: none"> ・自分からなかなか遊び出せず友達の遊ぶ様子を傍観している幼児や、教師や友達の指示を待ちながら遊ぶ幼児が見られた。 ・興味を持った遊びでも、上手くできなかつたりすると「できない」「難しい」「おもしろくない」「やらない」とすぐにあきらめてしまうことがあった。 	<ul style="list-style-type: none"> ・自分から好きな遊びを見つけ意欲的に遊んだり、教師や友達の誘われると「やってみようかな」と、興味・関心を示し遊ぶ姿が見られるようになってきた。 ・困難な出来事にあっても、すぐにはあきらめず「できるようになりたい」と自分なりの目あてを持ってこま回しや他の遊びに取り組む姿が見られるようになってきた。

幼児が主体的に活動するために、「やってみたくなる環境づくり」と「教師の援助のあり方」を探りながら保育実践を行ってきた。その結果、事前(10月)は、教師や友達の指示を待ちながら遊ぶ幼児も見られたが、事後(2月)には自分なりの目当てをもって主体的に遊ぶ幼児が増えてきた。

その中で、環境はすべて教師が用意するのではなく、幼児と共に作っていくことが、主体的に活動することにつながるということが分かった。

また、教師の援助においては、幼児がスムーズな活動ができるように教師が先取りをして援助をするのではなく、幼児の気持ちに添いながらタイミングを見計らい見守ったり揺さぶったりすることの大切さを痛感した。さらに、幼児が試行錯誤をしながら目的に向かっていく過程を支えていくことも大切であることが分かった。

以上のことから、「やってみたくなるような環境づくり」と「教師の援助のあり方」を工夫することで、幼児が主体的に活動していくことにつながるということが分かった。

VII 研究の成果と今後の課題

1 研究の成果

- (1) 主体的な活動を展開するためには、素材や教具など教師がすべて用意するのではなく、幼児が自分で考えたり試したり工夫したりできるような環境を、幼児と共に創っていくことが大切であることが分かった。 (VI-1)
- (2) 教師は、幼児の思いを読み取り、見守ったり揺さぶったり、タイミングを見計らいながら援助していく大切さを実践を通して再確認することができた。 (VI-1, 2)

2 今後の課題

- (1) 発達段階に即した、幼児と共に創る環境の工夫。
- (2) 幼児の内面を読み取る力量を高め、幼児の実態に基づいた援助の工夫。

《主な参考文献》

文部科学省	『幼稚園教育要領解説』	フレーベル館	2008年
無藤 隆 編著	『新幼稚園教育要領 ポイントと教育活動』	東洋館出版社	2009年
神長美津子 編著	『新しい幼稚園教育と実践事例集 第1巻 計画的な環境の構成 幼児の主体性と保育の展開』	チャイルド本社	2000年
秋田喜代美 編著	『新しい幼稚園教育と実践事例集 第4巻 教師の様々な役割 ともに学び合う教師と子ども』	チャイルド本社	2000年
柴崎正行 編著	『環境づくりと援助の方法 -保育実践から学ぶ-』	ひかりのくに	1997年



【試したり工夫しながら、色をつけたこま】



【こま回しを楽しんでいる様子】